

平成29年度(2017年度)第3回豊中市総合教育会議 議事録

1. 日時

平成29年(2017年)11月14日(火) 午前9時30分～10時30分

2. 場所

豊中市役所 第一庁舎6階 教育委員室

3. 出席者

市 長	浅 利 敬 一 郎
教 育 長	大 源 文 造
教育委員会委員 (教育長職務代理者)	船 曳 弘 栄
教育委員会委員	奥 田 至 蔵
教育委員会委員	藤 原 道 子
教育委員会委員	橋 本 和 明
教育委員会委員	山 名 貴 志

4. 案件

(1) 平成30年度教育に関する重点事項について

(2) その他

5. 出席職員

政策企画部

部	長	足立	佐知子
次長兼企画調整課長		糸井	達也
企画調整課課長補佐		佐野	健二
企画調整課企画調整係長		石村	知子

企画調整課(教育委員会事務局)	教育総務課)	福山	隆志
企画調整課(教育委員会事務局)	教育総務課)	田中	克嘉
企画調整課(教育委員会事務局)	教育総務課)	岩下	良輔

教育委員会事務局

事務局	長	吉田	久芳
教育	監	中井	一公
次	長	野村	和生
教育総務課課長補佐		湯浅	安由里
教育総務課企画經理係長		山内	智喜
児童生徒課長		道上	博行
児童生徒課生徒指導係長		込山	隆之

6. 議事

浅利市長

ただいまから、平成29年度第3回豊中市総合教育会議を開会いたします。

みなさま方にはお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。

まず、事務局職員から、資料の確認をさせていただきます。

(事務局より資料の確認)

浅利市長

本日は、傍聴を希望される方はおられません。

次に、出席者の紹介につきましては、資料1の名簿の配付をもって代えさせていただきます。

それでは、案件に入ります。

本日の案件の1件目、「平成30年度教育に関する重点事項について」教育委員会事務局より説明をお願いします。

福山次長

それでは、教育総務課よりご説明いたします。

資料2の「平成30年度 教育に関する重点事項」をご覧くださいと思います。

今年度は、教育に関する点検評価について、初めてAからDの評価を行うなかで、教育委員会、そして今年度設置をした点検評価委員会におきまして、教育振興計画の各施策項目ごとに様々な議論を行ってまいりました。その議論の過程で浮き彫りになった課題についてとりまとめ、資料2でお示ししております。

それでは、各項目につきまして、平成30年度に考えております新たな事業をご説明いたします。

まず一つ目の黒丸、「『魅力ある学校』づくり計画の推進」につきましては、(仮称)北校の工事に向けて、今後基本設計から実施設計へと進めていくこととしております。また、(仮称)南部コラボセンター建設に併せ、南部地区の児童生徒への支援に向けた検討が必要であると考えております。

次に、「新学習指導要領への対応」、「確かな学力向上施策の充実」としましては、学校における研究の強化や、小中学校における英語教育の充実が重要であるものと考えております。

次に、「体力向上施策の推進」では、特に小学生において、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果が、全国平均と比較して低い傾向が表れております。このため、体力、運動能力の向上に向けた取組みが必要であると考えております。

次に、「学校給食の充実」としましては、(仮称)新・第2学校給食センターの平成31年度2学期からの稼働に向け、廃棄物撤去や本体工事を着実に進めていきます。また、あわせまして、(仮称)新・第2学校給食センターの対象校におきましても、配膳室改修に取り組み、受け入れ態勢を整えてまいります。

次に、「いじめや不登校への対応」についてですが、不登校児童・生徒の出現率は増加傾向にあります。未然防止と早期対応に向けた取り組みが必要であると考えております。

次に、「学校施設整備」に関しましては、学校施設耐震化100%を達成する見込みであることから、今後トイレ・エレベータの整備や、学校施設の長寿命化の取り組みを検討します。

次に、「教育に関わる環境や条件の整備」については、就学援助の新入学児童生徒学用品費の支給時期の早期化を検討することが必要だと考えております。

次に、「家庭・地域への支援の推進」につきましては、地域子ども教室や地域教育協議会といった学校・家庭・地域の連携を進める事業のあり方を見直し、一体的に進めていくため、事業の再構築を進めていきたいと考えております。

次に、「社会教育の充実」としましては、プール開放事業の円滑な推進に向けた取り組みを検討します。

最後に、「文化財の保護・活用」につきましては、国史跡今西氏屋敷の史跡整備計画の策定などを予定しております。

簡単ではございましたが、以上で説明を終わらせていただきます。

浅利市長

ありがとうございます。たくさんの課題がございますが、このうちのいくつかの課題について議論させていただければと思います。各課題の中には、総合教育会議で議論させていただいたものもあり、またプール開放や給食センターの整備については、議会において議論がありましたので、項目によっては議論が進んでいる部分もあります。現時点においては、新学習指導要領への対応ということが、大きな課題として出てくるのではないかと考えています。あくまでも、教育については先生方の力量が重要になってきます。私なりに総合教育会議における議論や、議会における議論も聞かせていただいて、教育委員会事務局でもご対応いただいておりますが、そういった課題も含めまして、それぞれ教育委員会委員のみなさんから情報や課題認識についてご意見をいただいて、情報共有ができればと思いますが、ご意見いかがでしょうか。

船曳委員

「魅力ある学校」づくりについて、私も南部の小・中学校に長く勤務させていただいて、子どもを取り巻く学習環境は生活環境とも連動すると感じてきたところです。

この度、長い期間を経ていよいよ本格的に実施され、しかも義務教育学校ということなので、これだけ大きな改革を行っていかないとなかなか変えていくのは難しいと思っていました。

これまでも南部地域については、学力向上などについて、人的にも物的にもたくさんの方の支援をいただきましたがなかなか大きく変わることはできませんでした。新しい体制のもとで、小・中学校の9年間で多くの人で見ていくことが必要で、私の実感としては、小学校の高学年から中学校の間は、色々な変化がはっきりしていく時期でもありますので、この辺の区切りをどのようにするのか、また多くの先生方、多くの地域の方などを含め、もう少し広い人間関係を構築して、多様な人間関係の中で育っていくことが大切だと思っています。この計画もようやくここまでたどり着きましたが、今後も計画が遅滞なく進んでいくことを期待しています。特にこれから就学する子ども達が注視されると思います。また、先ほど市長からもありましたが、新しい学習指導要領にどう対応していくのかが非常に大きな課題で、主体的・対話的で深い学び、アクティブラーニングという部分では、これまでの取り組みを活かして子どもに伝えていかなければならないと思います。

昨日、熊野田小学校で道徳の示範授業の研修がありましたので参加させていただきました。非常に多くの小・中学校の先生方が参加されておりまして、筑波大学附属小学校の先生でしたが、4年生をモデルにして、これからの「特別の教科 道徳」の示範授業が行われました。今までは、どうしても内容理解で終わっていたところを、一歩進んで、自分の考えを持ったり、友達と意見を交わしたり、自分の意見を発表したりして、どのような気づきがあったのかということをもとめられていました。さらに評価の仕方についての講演もされ、どういう観点で評価するのか、変容を見ていくんですよということなど、具体的に評価の仕方を教えていただきました。今後は、小学校の英語などもありますし、時間も人もお金も必要にはなりますが、今年から来年にかけてしっかりと研修や研究が必要であると感じました。

大源教育長

「魅力ある学校」づくりについては、これまでも議論しておりますが、先日庄内のある中学校に船曳委員と訪問しまして、授業を拝見した後に先生方とお話をする機会がありました。子ども達が小学校からずっと同じメンバーなので、もっと多様な人たちと出会わせてあげたいという思いを先生方自らがおっしゃられていたことが非常に印象的でした。

また、新学習指導要領について、気になるところとしては、英語の問題があります。これまで小学校の高学年で外国語活動としておりましたが、教科化ということですので、これまでコアスクールということで予算をいただいてモデル的に中学校校区で中学校の先生が小学校に出向いて担任と一緒に授業を行うということを数年間実

施している、確実に小学校の子ども達が英語に対して、敏感に良い反応をしている、この子ども達が中学校に上がって非常にスムーズに入れているということをお聞きしました。この取組みを教科化していく際に、すべての学校で実施できたらいいなと思っていて、この取組みの成果の一つであると感じています。まだまだこれから研修も含めて教員のレベルも上げていかなければなりません、このような事例もあります。

橋本委員

「魅力ある学校」づくりに関連することかもしれませんが、子ども達にとって何が魅力あるのかということを考えていくと、先ほども不登校やいじめの問題、いじめ防止の教育もあるのかかもしれませんが、そもそも原点に戻ると学校が子ども達にとって安全で安心な場所となっているのか、一人ひとりの子ども達にとって、この学校にいて誰も傷つけられない、自分はここで安心していられるという居場所になっているのか、もう一度考えていく必要があるのではないかと思います。不登校について、成績の問題で学校に来ることができなくなる子どももいると思いますが、友達の中でうまくいかずに家に引きこもってしまう場合や、いじめの加害者でも被害者でもない、傍観者も多いのではないかと、この傍観者は安心・安全かというところではなくすごく揺れていて、いつ加害者側になってしまうのか、被害者側になってしまうのか、そこで傍観者も安全・安心な環境に置かれていない、単に加害者・被害者だけではなく、それを取り巻く周りみんなが不安感を持って学校生活を送っている、そういう点を基本に置きながらいじめ対策をどうしていくのか考える必要があると思います。いじめ対策の難しいところは、わかりやすいいじめではなく、見えにくいいじめの対策だと思いますので、子ども達にとって安心・安全がどれだけ保障されているのかを基本にしながら考えなければならぬと思います。

藤原委員

学校での安全・安心というところで、教職員がどうするのかという部分もありますが、児童・生徒自身が積極的に関わるということで、自らが関わって、自分で変えていく、安全なようにもっていくというような視点も大事かと思えます。

山名委員

私の子どもは中学生で、携帯を持たしていますが、携帯の中身をチェックすると、今は学校の中だけのコミュニティだけではなくて、学校外でのクラブの付き合いなどもあります。たまにチェックしないと悪口合戦となっている場合もあり、活字での悪口と実際に言葉で悪口を言うのとでは捉え方も変わっていく部分もあると思います。保護者がチェックした際により早く色々な情報が入ってくる場合もあります。いじめ

の発見というのは先生だけに頼らずに、ある程度敏感に反応してあげないと、何かあってからでは遅いと思うので、事前に防ぐという意味では保護者の方から情報を入れるというのも先生や学校にとっても大事なのではないかと思います。

奥田委員

社会教育関係の重点事項について、特に「家庭・地域への支援の推進」ということが、教育委員会事務局からも説明がありましたように、今回の点検評価の中でもAからDの評価のなかで「C+」ということで、少し施策の推進が遅れているという評価であります。何が問題なのか私も見えていない部分もありますが、大きなところでは、家庭教育の問題、青少年関係の問題についての施策の推進、この部分が遅れている訳ではないかもしれませんが、具体的な施策が見えてきていない、分かりにくい部分だとは思いますが、はっきり見えてきていないということでこのような評価なのだと思います。家庭教育というと行政もアプローチが難しい部分だとは思いますが、指導者の育成支援とか学習機会の情報提供について、もう少し強化や工夫が必要だと思います。昔は家庭教育学級と言っていましたが、そのファシリテーターになられた方々が機会を得て講座などをされていると思います。そういうところへ参加される方はいいですが、参加できない方、物理的に参加しにくい方への対応としては、積極的な情報発信、情報提供を続けていく必要があります。

若者支援の関係では、子ども・若者育成支援推進法が施行されて、それぞれが取り組みをなされていると思いますが、こちらについても具体的に若者の活動も含めて見えてきてない部分がありますので、もう少しこのような活動をしているという情報発信をしていただくと他の若者に対しての喚起になるのではないかと思いますし、参加する方も増えるのではないかと思います。

公民分館については、体育祭に参加してみても非常に活発な地域がある一方でしんどい地域もあります。文化祭も2年に1回しか開催できていないところもあり、交付金の弾力的な運用なども必要ではないかと思います。大事なことは次代を担う地域活動のリーダーの育成です。例えば、新しい地域創造に向けて地域の課題を議論していただくような中身の分館活動があってもいいのではないかと思います。各分館ごとでの取り組みが難しいのであれば、ブロック単位で外部人材の活用も入れながら新しい次の時代を担う指導者の育成とその活動の視野を広げていけるような展開をすべきではないかと思います。地域活動を担ってきた方々にも大変ご苦勞をかけておりますが、高齢化していることと、固定化していることが見えてきているので、このままいくと数年先は活動の継続が困難になっていくのではないかと考えています。

浅利市長

課題は山積ですが、家庭教育となるとなかなか突っ込みにくい部分があるとは思いますが行政としてはいかがでしょうか。

大源教育長

お聞きになっていることと違っているかもしれませんが、最近気になっているのは、支援学級在籍の子どもが増えてきていることです。この中でも情緒障害が増えていて、生まれながらに何らかの障害を持った子ども達が、近年突然増えたわけではなく、後天的な要素があって、例えば家庭であったり仲間関係でしんどくなってそのような傾向がみられるケースが増えていきます。先ほども家庭との関係とありましたが、家庭そのものがしんどくなっているのかなと感じます。

核家族化や地域との関係が希薄化している、奥田委員もおっしゃられましたが、色々頑張っておられる地域はありますが、そこに入れていない家庭がたくさんあって、そういう意味では、昔あったような地域との支え合いが欠如しているのではないか、お母さんと子どもの関係しかない一つだけの型にはまった価値観だけで子どもとの関係が続いて、子どもも親もしんどくなっているという家庭が非常に多いと感じます。もう少し色々な方と関わることで、多様なものの見方や考え方ができて、そこで社会関係が成立するようになればと思っています。

橋本委員

ちょっとしたことですぐ逆境に陥ってしまう、今までであれば、「今はしんどいけど将来楽しみだ」ということで乗り越えることもありましたが、ちょっとしたことで手放してしまう、このことは親だけではなく先生についても同様ではないかと思っています。この辺をどう乗り越えるのか、マイナスの状況をどう次につなげていくのか、誰しも我慢しなければならぬ場面はありますが、我慢できずにドロップアウトしてしまう。一つには周囲の支える力が弱いこともあるのかなと思います。

大源教育長

補足になりますが、学校でしんどい特徴を持った子ども達との関わりについて若い先生方が、この子どもは、今安心できる居場所がないのではないかと悩んでおられます。子どもを安心させるためには、まとめて受け止めてあげられるような役割を持つ人が必要であり、しかし一方で、社会のルールを守らなければならないことをしっかり言える人も必要であって、このあたりを役割分担して子どもに関わることによって、自分は安心してここにいていいんだと思えるような環境をどうつくっていくのかが重要ではないか、親にこうしてくださいと言ってもなかなかできませんが、学校で

そう関わることによって子どもは必ず変わっていきます。子どもが変われば親も変わっていく、長い取り組みですがこういう取り組みも今必要ではないかというやりとりが学校でありました。

浅利市長

橋本委員もおっしゃられましたが、私の見方ですが、先生という職は、常に理想を追い求めますので、これはしたらいけません、悪いことをしたらいけません、みんな仲良くなど職業柄で言うと、どうしても正しい事、正解を求めていくというところがあります。子どもとの人間関係では、真面目に前を向いている子どもとはうまくいきますが、成長過程にもよりますが、少し横を向いている子どもとは難しい部分があり、子どもは賢いのですぐに見破るということもあります。これは人間性とか幅にもよるのかもしれませんが、私はあまり理想論や正論だけで言うのではなくて、もう少し子どもに対して幅をもって、ゆっくり見ていくという側面も早く見ていくという側面も必要ではないかと思っています。

藤原委員

私は、誰とも仲良くするとか、うそは絶対いけないというのは少し違うと思います。みんなと共生はしていかなければいけません、どんな人ともうまくいかないこともあるよねということや、うそも方便という側面、本人のためのうそということも実際はあるよねということなど、その辺の本音の話をもっと先生はできないのかなと思います。そういう話をする子どもはずっとその先生のことを覚えているという話も聞きます。大変だとは思いますが、人間性とか幅が出るような先生であればいいのかなと思います。

浅利市長

人間的な関わりについては、なかなか教科書どおりにはいかないところがあるのかなと思います。課題は他にもあると思いますが、本日出ておりますような、いじめや不登校に関わること、社会教育については、教育委員会で所管はしておりますが打ち出すスタイルには課題がある、まずは学校教育の中で教員と子どもと保護者の関係があり、同時に大事にしなければいけないのは、専門機関とのつながりをどう持つのか、どう連携するのかという点についてご意見がありましたらよろしく願います。

山名委員

豊中市のメールマガジンを登録して見せていただいています、ひとり親家庭への支援についての記事をよく見ます。自分が子育てしていて思ったことですが、子ども

にすごく興味のある期間、子どもとの関わりが多い期間というのは生まれてから小学校低学年くらいまでという親が私の周りを見ても多いです。子どもがこのような時期の保護者に対して研修までもいかななくてもイベントのような形で子どものあるべき姿みたいなものをレクチャーして、コミュニケーションの大事さや家庭での会話の大切さを教える企画みたいなものを実施したり、フェイスブックなどを活用して発信していただければ、時間はかかるとは思います、子育てや教育について浸透させるひとつの方法ではないかと思えます。

浅利市長

就学前については、教育要領や保育要領、保育指針があり、国の流れで言えば、山名委員がおっしゃるように就学前も大事ですが、ご指摘のような子育てのありようとか関わり、保育教諭や保育士などについても含めて、ここは大事であるというところがあればここで議論していただいても結構ですが。

足立部長

今日いただきましたご意見を担当にもお伝えいたします。教育要領と保育指針の内容に大きな違いはなく、見る視点が少し違うだけで懸念していたほどハレーションを起こさずに一緒になれた部分はあると思います。何より専門職である保育教諭が情熱を持っているということがよく分かりましたので、今日いろいろと話題になりました指導する側と家庭とをどうつないでいくのかといったことを伝えさせていただきます。

浅利市長

子どもに関して保護者は関心があります。個人的には保育教諭のみなさんが豊かな子どもをもっと育てて欲しいという思いを持っております。また、保護者に対するアプローチという部分で、就学前から小学校にかけては保護者のみなさんは非常に希望を持って見えていますので、ご指摘いただいたようなことも認識していただければと思います。

橋本委員

幼稚園と保育園、教育と福祉が融合していくということで、このことは学校にもあてはまると思います。今エデュケアという言葉があります。エデュケーションとケア、つまり教育と福祉を学校の中にも作っていく。そのためにスクールソーシャルワーカーがいたり、教育だけではなかなか進んでいかなくて、福祉的な部分をどのくらい入れていくのかを考えながら学校づくりをしていく必要があるのではないかと思います。

浅利市長

南部の（仮称）北校、（仮称）南校は今言われたようなことを機能として取り組んでいかなければなりませんので、市民協働部との関わりとかいろいろな面があると思いますが、そのことが具体的に進んでいけばいいと思っています。

それでは、案件の2件目「その他」について、教育委員会事務局より説明をお願いします。

道上課長

それでは、児童生徒課より説明いたします。

9月になりまして、いじめ防止対策推進法第28条第1項第2号に規定する、いじめによる不登校重大事態が生起しておりますので、担当から説明させていただきます。

込山係長

資料3をご覧ください。

豊中市立中学校生徒に係る不登校重大事態への対応状況について、時系列で説明させていただきます。

9月6日、当該校の校長から教育委員会へいじめによる不登校事案の報告がありました。教育委員会として、重大事態とこの日に認定しております。

続きまして、9月12日に教育委員会から市長に報告させていただいており、9月19日には教育委員会委員に対しまして詳細を報告しております。

続きまして、9月21日ですが、いじめ防止等対策審議会を臨時で開催しまして、調査方法等を検討していただきました。審議会での検討内容をふまえて、基本的な方針を立てております。10月3日付けで当該校が第三者調査委員会を要綱により設置しました。資料にはございませんが、10月5日付けで教育委員会としての当該重大事態に対する支援についての要綱を策定し、専門家の派遣ができる形をとりました。第三者調査委員会には専門家を4名派遣しています。調査委員は合計5名で、うち1名は学校復帰を目的として学校の先生1名を調査員としております。

この体制のもと、10月30日に第1回調査委員会を開催し、11月6日には第2回調査委員会を開催し調査を進めているところでございます。なお、被害生徒については、庄内少年文化館と連携して学校復帰に向けて個別支援を継続している状況です。

浅利市長

一定の時期には教育委員会委員のみなさまにもご報告があったとのことですが、この件についてご意見、ご質問がございますでしょうか。

浅利市長

当事者間だけで終わらすのではなくて、組織的に対応していますということをご理解をいただいて、大事なことは子ども達が、今後どう成長するのかということで多くの専門の方々をいれて取り組んでいただいているという状況ですね。

浅利市長

その他ということで、せっかくの機会ですので、みなさまから何かありませんでしょうか。

なければ、私の方から1点報告いたします。

先日、グループの書道展があり、民家集落の施設において開催しておられました。毎行かせていただいておりますが、今回、知的障害の子ども達が2人おられて、作品を作るということと、受付に1人の方が座っていました。あまり話をするわけではありませんが、仕事としてやっていて、市長に少し説明したらということになり、私に頑張って説明してくれました。知的障害の方々の仕事については、豊中市も取り組んでおります。同時に一つの団体としてもうまく取り組まれ、いきいきと役割として担っている点もすごいと感じながら先日拝見させていただきましたので情報提供いたします。

それでは、以上をもちまして、第3回豊中市総合教育会議を閉会したいと思います。ありがとうございました。